

【演題】

『クオリティと効率を考慮したセラミック修復』

日技認定講師 **鬼頭 寛之**
(愛知県歯科技工士会)

【抄録】

昨今、CAD/CAMの普及により、補綴設計またはマテリアルセレクションも大幅に変化している。ジルコニアもさまざまな透過性の種類が登場し、レイヤリング法からステイン法が主流となったと感じる。しかし前歯部審美領域には両手法ともメリット・デメリットが存在する。レイヤリング法においては匠の技を有し製作において難易度は高いが審美性も高い。反面、ステイン法においてはレイヤリング法に比べると製作する難易度は低くはなるが症例を選ぶ必要がある。

今回、私が実習を行うマイクロレイヤリング専用陶材は、両手法のメリットを掛け合わせたシステムであり、新しい手法である。材料の特徴、フレームワーク、ステイン材など様々なポイントを紹介する。

募集定員

先着：実習10名、見学9名 三重県内在住か在勤者を優先

【実習参加者・持ち物】

ポーセレン築盛用筆、スパチュラ、ピンセット、
ガラス練板、形態修正用バー